



# The Episode of PwC Tax Japan

PwC税理士法人のプロフェッショナルを、もっと知る。



# PwC Tax Japan

PwC税理士法人の  
プロフェッショナルを、  
もっと知る。

プロフェッショナルとして生きていくあなたへ。

一つの道を究める、つまりプロフェッショナルを目指すことは、とてもやりがいのあることだと思います。

それには常に前を向いて進んでいこうとする強い意志、その歩みを支えてくれる仲間や仕組みが必要でしょう。

高度で専門的な分野であれば、なおのことです。

社会の変化とともに柔軟に形を変えてきた税。デジタル化というかつてない変革期を迎えた今、税務プロフェッショナルにも新しい姿が求められています。

PwC税理士法人——  
あなたはここでどんなプロフェッショナルを目指しますか。  
その志をかなえるためのステージがあります。  
共に、あなたらしく、胸を張って、歩んでください。

## Index

### Five forces of PwC Tax Japan

#### ■ PwC税理士法人、際立つ5つの力。 03

01 Business Sense  
企業経営と向き合えるビジネス感覚 04

02 Expertise  
圧倒的な税の専門性と国際感覚 06

03 Collaboration  
部門の垣根を越えて協働する総合力 08

04 Technology  
AI時代に求められる  
税務プロフェッショナルの資質と専門性 10

05 People & Culture  
多様な人材力とフラットなカルチャー 12

### Interview

#### ■ パートナーインタビュー 14

01 Partner  
パートナー(松永 智志)公認会計士／税理士 等 14

02 Partner  
パートナー(武田 恭世)税理士 18

### Tax Services

#### ■ 税務プロフェッショナルの仕事とは 22

01 Business Sense  
企業経営と向き合えるビジネス感覚



### Career Step & People

#### ■ プロフェッショナルとして成長していく 26

02 Expertise  
圧倒的な税の専門性と国際感覚

03 Collaboration  
部門の垣根を越えて協働する総合力

04 Technology  
AI時代に求められる税務プロフェッショナルの資質と専門性

05 People & Culture  
多様な人材力とフラットなカルチャー

### Work Style

#### ■ 職場環境とワークスタイル 32

01 Business Sense  
企業経営と向き合えるビジネス感覚

02 Expertise  
圧倒的な税の専門性と国際感覚

03 Collaboration  
部門の垣根を越えて協働する総合力

04 Technology  
AI時代に求められる税務プロフェッショナルの資質と専門性

05 People & Culture  
多様な人材力とフラットなカルチャー

### A Message from Our CEO

#### ■ CEOメッセージ 33

## Five forces of PwC Tax Japan

### PwC税理士法人、際立つ5つの力。

クライアント企業の水先案内人として  
時代の荒波を乗り越えるために  
税務プロフェッショナルに求められる力とは？

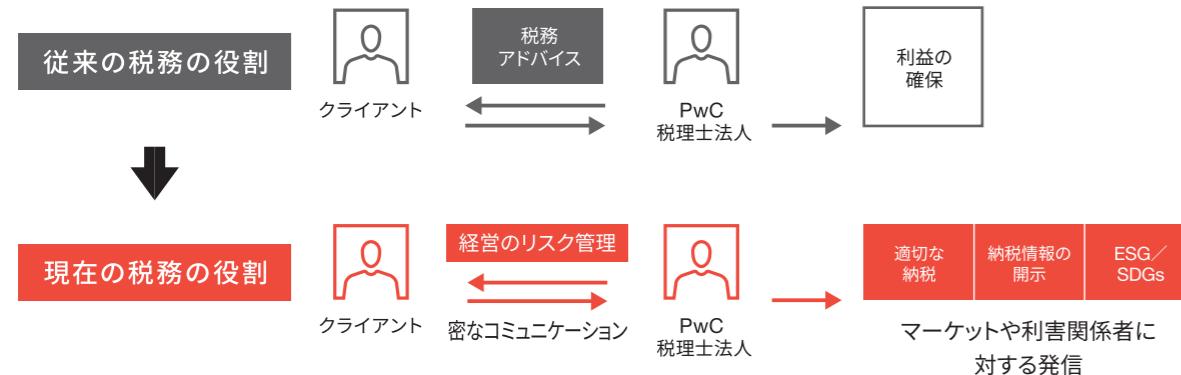
経済のグローバル化、従来の秩序を破壊しかねない多様なリスク、  
厳格化する社会規範、複雑化する税法など  
企業を取り巻く環境は劇的に変化しています。

その中で税務プロフェッショナルとしてPwC税理士法人が  
強みとしていることは何でしょうか。  
詳しくご紹介します。

# 01 企業経営と向き合える ビジネス感覚

## Business Sense

私たち税務プロフェッショナルに対するクライアントのニーズは大きく変わってきました。時にはクライアントの期待を超える価値を求めることが珍しくありません。税務プロフェッショナルにはこれまで以上に「ビジネス感覚」が必要です。



### 激変する時代、税理士のミッションも変わってきた

かつては「節税は善」という考えが支配的でした。税理士に期待されたのも、申告業務においていかに税負担を低く抑えるかという点だったのです。しかし今や「いかに正しく納税しているか」が問われる時代になりました。各国でどれだけ納税しているかを企業自ら積極的にディスクローズするようになったのも、納税に不透明感があると激しく糾弾され、時にはそれが経営の重大なリスクにつながりかねなくなったりましたからです。

一般的には「税務の仕事」とは税務申告業務や記帳代行業務がイメージされるかもしれません。“税務コンプライアンス業務”と呼ばれるものです。しかし、それは税理士の業務の一部にすぎないのです。今世界は大きな変動の真っただ中にあります。不確実性の増す国際

情勢、急速な技術革新、そして環境・社会課題への対応が、企業の在り方を根本から問いかけています。企業活動には従来の「株主のため」という発想を超えて、「従業員のため」「地域のため」「地球のため」という意識が強く求められるようになりました。こうした価値観の変化は、税に対する企業の姿勢や考え方にも確かな変化をもたらしています。

当然、企業が税理士に求めるものも大きく変わりました。この劇的な変化と正面から向き合い、先取りしていくことは、税務プロフェッショナルとして決して避けられません。

### 「サービス業」としての自覚のもとで専門性を磨く

企業に対して多大な影響を与える税金。そのリスクを能動的にマネジメントしていくことを“税務コンサルティング業務”と呼びます。クライアントの事業に貢献し、企業の成長においては経済の発展に寄与していくことが、私たち税務プロフェッショナルに求められるようになりました。これに応えていくためには税務に対する深い知識はもちろんのこと、企業のさまざまな活動や仕組みを理解すること、企業自身が気づいていない税務上の課題を抽出すること、そしてより良い解決策を提案する「ビジネス感覚」が不可欠となっています。こうした観点に立つと「税務コンサルタントはサービス業である」という意識が生まれてきます。税務の専門家ではないクライアントからの確に情報を引き出し、潜在的なリスクを見つけ出す。そのリスクを専門知識がなくても理解できるよう

にわかりやすく説明する。そして課題を共有し、同じ方向を見て解決に取り組む。「税法上、それはできません」と上からの目線で切り捨てるのではなく、クライアントに寄り添って解決策を模索し、提案することが税理士に求められています。これが「サービス業」とすることなのです。税理士の業務の中にはAIで代替可能な部分も多くあり、当社でも積極的にその活用を進めています。しかし、「サービス業」としての本質的な役割は決してAIには置き換えないものです。これから税務プロフェッショナルを目指す皆さんにとって大切なのは、サービス業としての自覚と卓越したビジネス感覚を備えた税務プロフェッショナルの先輩とともにキャリアをスタートさせることです。PwC税理士法人には、その環境があります。

#### PwC's episode パートナーが語るエピソード

##### 実践で通じるスキルが身に付く

私は日系企業向けにクロスボーダーの税務ストラクチャリングアドバイスを提供とともに、炭素税等の法制度調査やカーボンクレジット関連取引のアドバイスにも関与しています。前者はPwCグローバルネットワークのメンバーファームとクライアントの間に立つことで、プレゼンテーション力や成果物をデリバリーする力を養うことができます。後者は課題やソリューションは何かを模索するところから始まるため、クライアントの声を聞く力が培われます。

#### PwC's episode パートナーが語るエピソード

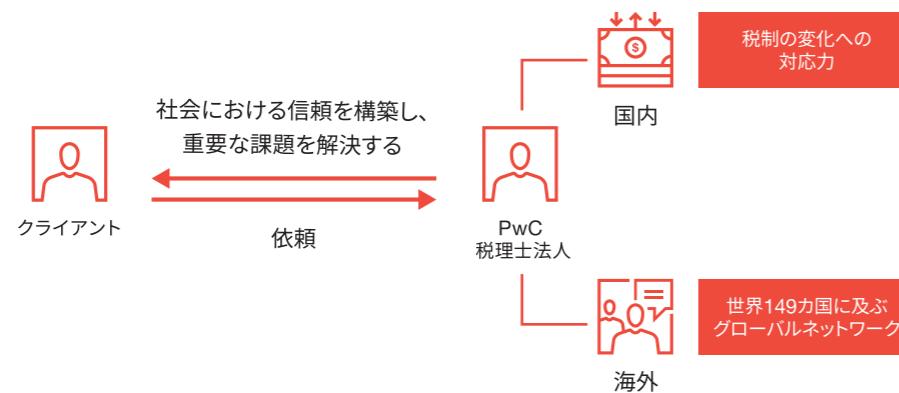
##### 誰でも新規事業にチャレンジできる

年齢や役職に関係なく新しい挑戦ができるPwC税理士法人。私のチームでもデジタル化、DX、ESG、コーポレートガバナンスなどにアンテナを張り、タックスとの掛け算によって新しい価値提供や社会貢献ができないか、思考を重ねています。例えば「ETLツールなどデジタルテクノロジーを活用した税務申告業務の効率化支援」「電子帳簿保存法対応による経理業務のペーパーレス化支援」などのサービス開発に挑んでいます。

# 02 圧倒的な税の専門性と国際感覚

## Expertise

税務プロフェッショナルが所属する大手ファームとして、PwC税理士法人は税についての圧倒的な専門性を誇ります。またグローバルな舞台で活躍していくために必須の、国際感覚を身に付けられる環境も用意されています。



### 税システムをデザインするチームの一員

経済社会の変化を踏まえ、税のシステムも刻々と姿を変えてきました。日本においても中長期的な視点のもとで税のあり方が検討され、具体的な税制改正案に反映されています。クライアントに対し価値ある税務コンサルティングを提供する上で、税制の先行きを前もってつかんでおくことは非常に意義があることです。この点でPwC税理士法人は大きなアドバンテージを誇っています。具体的にはさまざまなチャネルを通じて税務当局と意見交換を行い、どのような方向に向けて税を改正していくことが産業界のニーズと合致しているか、というインプットを当局に対し行っていくことが期待されています。同時に税務に携わる多数の当事者やプロフェッショナルとネットワークを構築し、最新のトレンドを素早く

キャッチすることも可能にしています。税システムをデザインしているチームの一員であるといつてもいいでしょう。こうした圧倒的な専門性は、PwC税理士法人ならではの大きな強みとなっています。このように税の「次の姿」を把握しながらクライアントに対して税務コンサルティングを行うことは、経済活動が社会の発展に正しく結び付くようにサポートすることに通じます。それはPwCのPurposeである「社会における信頼を構築し、重要な課題を解決する」の実践に他なりません。クライアントが新たな税リスクに直面する危機を事前に防ぐことができるという意味でも、重要なことだと考えています。

### 国際税務業務に必要な知見を磨く

企業活動のグローバル化は進む一方です。しかし、気候変動の影響や地政学リスクなど、グローバルレベルの新たなリスクは、そうした企業活動をより一層複雑なものにしました。一方でグローバルな企業活動に伴う国際税務問題に対応できる税務プロフェッショナルの数はまだまだ不十分だともいわれています。企業活動がグローバルになればなるほど、世界規模での税法の情報・知見が必要になってきます。また国際的なM&A案件などでは税務だけでなく、当該国の会計、法律の専門家が結集する必要があります。そのためグローバル企業の税務問題に対応するには、国際的なネットワークを持つビッグファームでなければ難しいといえるでしょう。

世界149カ国に及ぶグローバルネットワークを通じて、高品質な監査、税務、アドバイザリーサービスを提供しているPwC。私たちPwC税理士法人はこのPwCグローバルネットワークのメンバーファームです。クライアントが国際的な税務課題に直面した際も、各々のメンバーファームと連携し、国際税務サービスを提供しています。いうまでもなくこうした環境で働くことは、国際税務業務に必要な知識・経験を積むことに通じます。PwC税理士法人では積極的に海外に人材を派遣しており、例えは海外勤務制度では2~3年程度、海外のメンバーファームで働くことができます。言葉や文化の違いを超えて人を巻き込んでいく力も磨くことができ、それはあなたが将来、税務プロフェッショナルとして活躍する上で大きな財産となるはずです。

#### PwC's episode パートナーが語るエピソード

##### 専門性によって高い信頼を得る

連結納税制度からグループ通算制度への移行が進む中、ある案件でも連結納税について連結納税制度のもとで導入した方がいいのか、それとも新しいグループ通算制度のもとで導入した方がいいのか、難しい舵取りに直面しました。課税当局と密にコミュニケーションを取り、クライアントにとってベストと思える対応を提案。結果的に一層の信頼を得ることに成功しました。関係各所との信頼関係を活かしたプロジェクトとなりました。

#### PwC's episode パートナーが語るエピソード

##### 海外出向で得た一番の財産とは

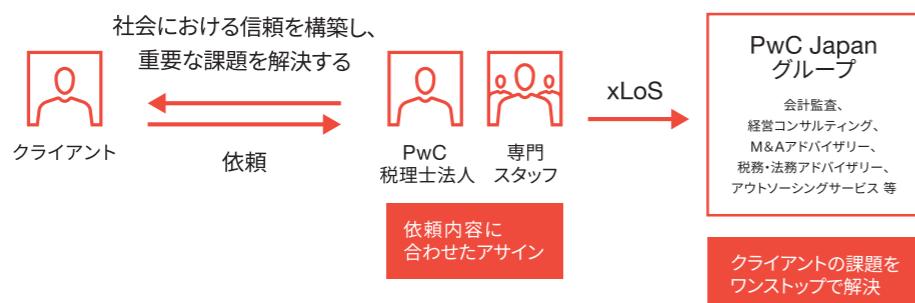
入社5年目にPwC米国ロサンゼルス事務所に出向きました。当初予想したのは流暢に英語でコミュニケーションをとる自分の姿でした。しかし実際に得られたのは文化的背景も立場も異なるメンバーと仲間になり、一つひとつの業務を円滑に完遂する経験と自信です。これは帰国後、グローバル案件を担当する上で大きな財産となっています。また雄大なカリフォルニアの自然の中で暮らした経験は、私の人生に大きな影響を与えてくれました。

# 03

## Collaboration

# 部門の垣根を越えて 協働する総合力

オープンであることは、PwC税理士法人の大きな特徴の一つです。部門や役職、さらには法人の違いを超えてメンバーが自然にコラボレーションする風土があり、それがワンストップサービスを可能にする総合力を生み出しています。



### 自由な異動が主体的な成長を促す

大手税理士法人の場合、一般企業の役員に相当する“パートナー”と呼ばれる役職者をリーダーとしてプロジェクトチームが組成されます。これは大手監査法人、コンサルティングファームでも同様です。パートナーとは共同経営者であり、高い独立性を持つのが普通です。この点はPwC税理士法人も同様ですが、私たちの大きな特長として挙げられるのが、パートナー同士の助け合いやチームを超えたコラボレーションが自然に行われていることです。ほとんどのパートナーは、例えば国際税務だったり移転価格だったりと、自分ならではの高い専門性を持っています。その専門性を他のチームやスタッフ育成のために役立てることにためらいを持たないのがPwC税理士法人のパートナーたち。サポートする方も、

求める方も、ごく気軽に声を掛け合い、助け合っています。まさにPwCならではのオープンカルチャーによるものです。またスタッフの異動が本人の意思に基づいて行われるのも、PwC税理士法人の魅力です。スタッフが新たな知見を吸収したいと他チームへの異動を希望した場合は、公募制異動制度(OEP:Open Entry Program)を利用し、スタッフは自分のキャリアステップを考えながら、自由に経験を積んでいくことができます。もちろん本人の意思に反した異動は行われません。本人の意思が何よりも優先されるのです。こうした方針が個人のポテンシャルを最大限に引き出し、結果として組織全体としての人材の最適配置に結び付いているといえるでしょう。

### 異なる法人が一つのチームとなって

PwC Japanグループには、税理士法人の他、PwC Japan有限責任監査法人、PwCコンサルティング合同会社、PwCアドバイザリー合同会社、PwC弁護士法人などが含まれています。それぞれは独立した別法人として事業を行っていますが、その垣根を越えてコラボレーションすることもごく日常的に行われています。こうした協働の仕組みはxLoS(Cross Line of Services)と呼ばれ、PwC Japanグループ独自の強みを生み出しています。例えばPwC税理士法人のクライアントに新たな課題が発生した場合、その窓口となっている担当パートナーは必要に応じてPwC Japanグループ内の他法人に声を掛けて協働を依頼します。具体的にプロジェクトがスタートすると担当パートナーの指示のもとで

各法人が協力し、クライアントの課題解決に向けて全力を尽くします。仮に税理士法人の業務比重が小さかったとしても、気に留めることはありません。こうした姿勢がクライアントの課題をワンストップで解決する、価値の高いソリューション提供につながっているのです。

このようなカルチャーを象徴するのが東京・大手町のオフィスです。4フロア内に内階段を設置し、エレベーターを使わず気軽に移動できるような工夫も施されています。非常に回遊性の高い構成となっており、部門をまたいだ自然なコミュニケーションが生まれるようになっています。

#### PwC's episode パートナーが語るエピソード

##### 成長するチャンスは多く用意されている

私は商社勤務を経て2001年に入社し、金融部に配属されました。その後PwC英国に出向し、その経験をもとに帰国後は事業法人部に異動。現在は国際税務／ディール・スタックスグループにてM&Aを通じた企業の成長を支援しています。このようにPwC税理士法人では、自ら挑戦する人には多くの成長の機会が与えられます。また部署の垣根を越えたチーム編成も多く、以前所属していた部署のメンバーとコミュニケーションする機会も多くあります。

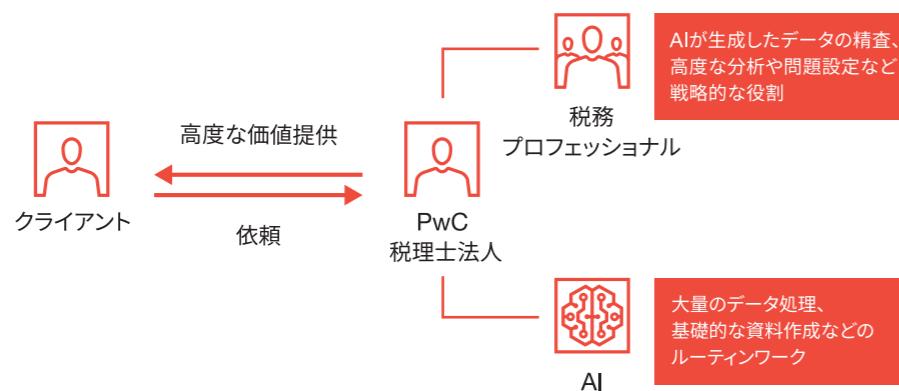
#### PwC's episode パートナーが語るエピソード

##### 大規模M&A案件でシームレスなサービス体制を構築

大手不動産会社から受けた相談は、大型施設のM&Aについてでした。私はPwC Japanグループを代表する窓口を務め、PwCアドバイザリー合同会社、PwCコンサルティング合同会社と連携してワンストップでサービスを提供。両者の複数の専門チームが一体となり、シームレスでサービスを提供する体制を構築し、案件を成功に導きました。クライアントの経営層からも絶大な信頼を得ることができました。

# AI時代に求められる税務プロフェッショナルの資質と専門性

テクノロジーの進化、特に生成AIの登場により、税務の世界は急速に変革しています。PwC税理士法人では、この変革の波に乗り、最先端のAI技術を積極的に活用しながら、AIと共に存し、それを上回る価値を生み出す税務プロフェッショナルの育成に注力しています。



## ■ AIが切り拓く新たな税務の世界

税理士業務は、大量の数値入力や資料の整理などに多くの時間を費やすものでした。しかし、生成AIの登場により、そのような作業の多くが効率化されることとなります。PwC税理士法人では、税務特化型のAIチャットボットを社内で積極的に活用しています。チャットボットは複雑な税務質問に瞬時に回答し、法令などの調査を効率化します。これにより、税務プロフェッショナルはより高度な分析や戦略立案に集中できるようになりました。さらに、申告書作成の一部業務にも生成AIを導入し始めています。AIが資料を読み込み、適切な情報を抽出し、ワーキングペーパー(申告書の根拠となる計算資料)の基礎を作成、人間がそれをレビューして仕上げるというプロセスにより、作業効率が飛躍的に向上します。

## ■ クライアントのAI変革を支援

私たちの役割は、自身の業務にAIを活用するだけではありません。クライアントの生成AI活用による業務変革も積極的に支援しています。多くの企業が生成AIの導入に興味を持つ一方で、その適切な活用方法や潜在的なリスクに不安を抱えています。私たちは、税務・会計の専門知識とAIの技術的的理解を組み合わせ、クライアントのAI導入支援や活用戦略を提供しています。例えば、クライアントの経理部門にAIエージェントを導入する際、単なる技術的サポートだけでなく、AIが生成したデータの信頼性に関する助言や、AI使用に伴う新たな税務業務フローの提案など、総合的なサービスを提供しています。

## ■ AIと共に存する税務プロフェッショナルの未来

生成AIの登場により、ルーティンワークの多くはAIが担うようになります。税務プロフェッショナルの役割はより戦略的なものへとシフトしていくかもしれません。しかし、これはAIに仕事を奪われるということではありません。むしろ、AIと協働することで、私たちの専門性を最大限に発揮できる環境が整いつつあるのです。AIが処理した大量のデータを基に、税務プロフェッショナルならではの洞察力や創造力を発揮し、クライアントに真の価値を提供することが求められています。

## ■ 求められる新たな税務プロフェッショナルの資質、専門性、育成

AI時代の税務プロフェッショナルには、従来の専門知識に加え、新たな資質と専門性が求められます。PwC税理士法人では、テクノロジーの観点で、以下のような能力の育成に注力しています。

- 1 技術適応力と創造的思考: 最新のAIツールを実務で積極的に活用し、その過程で得られた知見を共有。また、PwC Japanグループでは、AIを活用したプロジェクトの共有化を実施し、優秀なプロジェクトを表彰しています。
- 2 倫理的判断力と批判的思考: AI倫理に関するオンラインセミナーを実施。また、AIが生成したデータや分析結果を評価・検証し、改善を実施しています。
- 3 高度なコミュニケーション力: 社内プロジェクトにおいて、AIの分析結果を分かりやすく説明する経験を積み、クライアントとの実際のミーティングに同席してもらうことで、実際の業務を通じてスキルを磨く機会を提供しています。
- 4 問題設定力と多角的視点: 複雑な税務問題をAIに適切に指示できるよう、問題の構造化と明確な表現方法を共有します。また、異なる専門分野のプロフェッショナルとチームを組み、多様な視点から問題を捉える機会を提供しています。

これらの能力育成は、座学だけでなく、実践的な経験を重視しています。また、経験豊富な職員によるメンタリングプログラムも充実させ、若手がAI時代の税務プロフェッショナルとしてのキャリアパスを描けるようサポートしています。

## ■ 新時代の税務プロフェッショナルへ

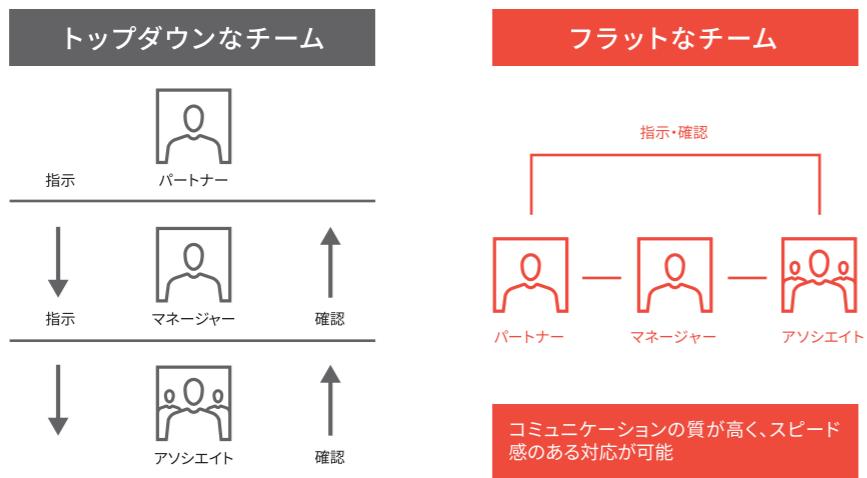
AI時代の到来は、税務の世界に革命をもたらすとしています。これは脅威ではなく、大きなチャンスです。AIと協働することで、私たちはより創造的で戦略的な業務に注力できるようになります。PwC税理士法人では、テクノロジーの力を最大限に活用しながら、高度な判断力や創造的な提案力を持つ税務プロフェッショナルの育成に力を入れています。AIと人間が協働する新しい時代の税務のあり方を、共に探求し、創造していく。そんな刺激的な未来が、PwC税理士法人あなたを待っています。

# 05

## 多様な人材力と フラットなカルチャー

### People & Culture

チーム単位で業務に取り組むのが税理士法人に共通の働き方です。しかしチームを構成する人材の多様さと、フラットなカルチャーはPwC税理士法人ならではの魅力といえます。互いにリスペクトし合う風土は、若手の育成にもつながっています。



### 柔軟で強靭な組織を支える多様性

「多様性」は現代のビジネス社会の重要なキーワードの一つです。なぜでしょうか。ビジネスが複雑化・高度化する中、もはや画一の価値の創出だけでは市場ニーズに応えられなくなっていました。さまざまな価値観やスキル、経験が混じり合う中から生み出されるさまざまなソリューションが求められる時代となったのです。PwC税理士法人でも人材の多様化を図っていくことでこうした変化に対応しています。例えば税理士法人でありながら公認会計士を大量に採用。USCPA取得者、弁護士など多様な資格を有する人材が集まっています。ハイポテンシャルであれば税務経験の有無も関係ありません。30代、40代で採用された税理士業務未経験のメンバーが、今やパートナーと

して活躍しています。もちろん年齢や性別、国籍等も一切関係ありません。一度退職した後に再入社するケースが後を絶たないことも、柔軟な採用方針の表れです。多様な人材を採用する上で求められるのが、多様な働き方を可能にする環境・制度です。フレックス勤務や時短勤務制度は今までもなく、遠距離通勤やリモートワークなどの働き方も積極的に支援しています。多様な形の木材を組み合わせた建築物が強靭さを発揮するように、多様な人材の活躍する組織は非常にたくましいと私たちは考えます。人材の多様な属性、個性を尊重することでPwC税理士法人は強みを生み出しているのです。

### フラットなカルチャーがプロフェッショナルを育てる

PwC税理士法人が大切にしている価値観の一つが、フラットなカルチャーであることです。一般的に大手税理士法人ではパートナーのもと、マネージャー、シニアアソシエイト、アソシエイトなどの組み合わせでチームが編成されています。これはPwC税理士法人でも同様ですが、前提となっているのは全員が対等な関係の、フラットなチームであるということです。

フラットな組織の強みは、スピード感です。メンバーが一堂に集まって議論し、アウトプットすることで成果はすぐに形となり、クライアントに提供されます。このスピード感は、まるでスタートアップのベンチャーのようです。

コミュニケーションの質は高く、メンバーの意見を上位の人間が積極的に吸い上げるスピーカップの風土も生まれます。例えば新人がパートナーから直接声を掛けられることは珍しくありませんし、若手の発言にベテランが積極的に耳を傾ける姿勢も根づいています。このようなカルチャーが成長へのモチベーションを高めてくれることはいうまでもありません。「ミーティングの場で必ず若手にも意見が求められる」「経験が浅いからといって発言を否定されない」といった実感は、成長への意欲を自然と高めてくれるのです。税務プロフェッショナルは、PwC税理士法人のこうした環境から育っていきます。

#### PwC's episode パートナーが語るエピソード

##### 海外のメンバーとも距離の壁は感じません

PwC税理士法人には税理士や公認会計士だけでなく、事業会社での経験を経て入社された方、海外出身者など、多様性に富んだ人材が所属しています。お互いの立場や考え方、生活スタイル等を尊重しながら一つの目標を成し遂げることを通じて、さまざまな学びや視点を得ています。また海外のPwCメンバーと働く機会も多いのですが、各国チームとの物理的な距離を意識することは少なくなったと感じています。

#### PwC's episode パートナーが語るエピソード

##### 現場で必死に学び続けたことが今の自分に

入社間もない頃からクライアントの課題解決に向けた議論に参加できた経験は、今の自分への道しるべとなりました。レベルの高いクライアントからの質問に対応するパートナー、マネージャー、先輩スタッフの姿は当時の私には非常にまぶしく、一日も早く自分もこうなりたいと思ったものでした。議論に追いつきたいと必死に食らいつき、学んでいく日々でしたが、その繰り返しが今の私をつくったことは間違ひありません。



## 松永 智志

Satoshi Matsunaga  
金融部 PE(プライベートエクイティ)  
パートナー  
公認会計士／税理士 等

- 2001年 入社、金融業界の外資系クライアントの質問対応や申告書作成業務等を担当
- 2002年 シニアアソシエイト昇格。税務調査の立会業務、税金の還付申請業務等を担当
- 2004年 アシスタントマネージャー昇格。税務コンサルティング業務に比重を置くようになる
- 2006年 マネージャー昇格。主にグローバルPEファンドへのコンサルティング業務を多数担当
- 2010年 シニアマネージャー昇格
- 2011年 PwC米国に赴任。米系クライアントの日本拠点に係る本邦税務サービスを提供  
同時に日系企業に対して米国税務サービスも提供
- 2013年 ディレクター昇格。帰国後はグローバルPEファンドに対するサービスを増やす
- 2015年 パートナー昇格。PE業界でのPwCのブランディングにも取り組む

## 01 Interview

オンラインの専門性を  
身に付けよう。  
プロフェッショナルとして輝くために。

### ■ コンサルタントとしての未来を志す

バブル経済崩壊後に学生生活を過ごした私たちの世代では、ダブルスクールがはやっていました。大学で学ぶ傍ら専門学校等にも通い、資格取得を目指すというスタイルです。就職氷河期の真っただ中、不景気であっても食べていけるように資格を取らなければという思いが、そこにはありました。もちろん私も同様に考えており、当時私がイメージしていたのは、コンサルタントとして働くということです。しかし当時の日本はコンサルティング業界の黎明期で、ほとんどのコンサルティングファームが新卒採用のドアを閉じていました。そこで私は、監査法人もコンサルティング業務を行っていると知り、公認会計士を目指すことにしたのです。もちろん非常に難易度の高い資格ですが、

目標が高ければ高いほどモチベーションも高く保てると考えました。その後、実際に大手ファームを中心に監査法人への就職活動を始めました。そして見えてきたのが税理士法人の魅力です。というのも監査の仕事は“できあがった数字”を見ていくのに対し、税理士の仕事はクライアントと一緒に“数字を作っていく仕事”だということでした。それまで私は税理士の仕事といえば記帳代行や申告書作成といったイメージが強かったのですが、それら税務コンプライアンス業務の一方で、コンサルティング業務も税理士が行っていると知ったのです。そこでコンサルタントとして活躍するという志をかなえる道として、税理士法人のドアをたたくことにしたのです。

### ■ 海外で活躍するチャンスを得る

PwC税理士法人に入社した理由の一つは税理士のみならず公認会計士も積極的に採用していたことです。現在でも税理士法人であるにもかかわらず当社の職員の約3分の1は公認会計士です。コンサルティングを行うには税務はもちろん会計や法律の知識も不可欠です。それらを学ぶ上で組織の多様性は重要であり、税理士以外のプロフェッショナルを積極的に採用している企業姿勢には魅力を感じました。そしてもう一つの理由は、海外派遣に力を入れていることです。当時も日本企業はグローバル展開が最重要課題となっており、海外経験はコンサルタントとして活躍する上で必須のことと感じました。もちろん他の大手ファームでも海外派遣の機会はありますが、PwC税理士法人では特に海外派遣を積極的に進めていることから、そのチャンスが圧倒的に多いのではないかと感じました。ここならば海外で活躍

する機会が必ず得られると思ったのです。実際にこの思いがかなって海外出向することになったのは入社10年目のこと。PwC米国に赴任し、ニューヨークのオフィスで働く機会を得ました。ニューヨークといえば、世界有数の厳しい競争環境です。英語が苦手だった私にとって所属部署に日本人は自分1人だけ、しかも「日常がインターナショナル」という状況下、同じカルチャーを共有していない人たちと競い合うというのは決して甘いものではありませんでしたが、それだけに自分を厳しく鍛えることができたと感じています。何よりもグローバルファームの一員としての誇りや国境を越えたハードなネゴシエーションによって身に付けた交渉力などは、グローバルPE(プライベートエクイティ)ファンドを担当する現在の私にとって大きな財産となっています。



## ■ PEファンドの税務コンサルティング力を磨く

入社後しばらくは税務コンプライアンス業務が主でしたが、次第にコンサルティング業務に軸を移していく、マネージャー昇格以降はコンサルタントとしての業務がほとんどとなりました。特に知見を深めていったのがグローバルPEファンドに対するストラクチャリングや税務デューデリジェンスなどの税務コンサルティング業務です。PEのOU（オペレーティングユニット）もパートナーに昇格してから自分で発足させました。

PEファンドが“企業を買って売る”という一連のディールを行う際、投資効果に与える課税の影響は非常に大きいものがあります。そのため私たちが提案する投資ストラクチャーの巧拙がクライアントの

投資成果に直結します。クライアントやその他のプロフェッショナルと一つのチームとなり、ストラクチャリングを進めていく過程には大きな醍醐味があり、クライアントからの評価もダイレクトに伝わってきます。新聞の一面を飾るような大規模な買収案件に携わることもあれば未上場の中小企業の案件に携わることもあります。対象会社や売り手のポジションによってさまざまなプランニングが求められる、極めてクリエイティブな業務です。今、社会が激変する中で産業界も自ら変わっていくことを求められています。私たちの業務は業界再編を促す一助にもなり、時代の変革をサポートすることにもなるでしょう。そんな社会貢献の手応えも喜びの一つです。

## ■ バイネームで依頼される税理士として

ここまでグローバルPEファンドに特化してコンサルティング業務に携わっているチームは、他の大手ファームにはほとんどないのではないかと自負しています。グローバルPEファンドの間でも私たちの名前は広く知られているよう、バイネーム（ご指名）で仕事の依頼がくることも珍しくありません。多くのクライアントからファーストコールされるプロフェッショナルであることは、私たちにとっての大きな誇りとなっています。今後はPEのOUの成長を通じてPEファンドの税務コンサルティングに強いパートナーを多数育て上げ、組織の持続的な成長を実現するとともに「PEならPwC」と広く認知されるようになりたいと考えています。

これからの時代、税理士の仕事はAIに取って代わられるのではという指摘が盛んになされているようです。私が学生時代に税理士の仕事としてイメージしていた記帳代行や申告書作成といった業務は、確かに

AIが片付けるようになっていくでしょう。しかし、税務コンサルティングは違います。コンサルタントとしてより強くなっていくためには、税務に精通するだけでなく、税以外でも圧倒的な強みを発揮する専門性を身に付けておかなくてはなりません。PEファンドに精通したコンサルティング力はその一つで、これから入社される皆さんにもぜひその知見をお伝えしたいと考えています。プロフェッショナルであるために税理士は、新しい価値を生み出すクリエイティビティ、クライアントに深く寄り添うホスピタリティ、そしてプロジェクトをコントロールするマネジメント力が必須となります。どれもAIにこなせるものではありません。PwC税理士法人にはそれらを身に付けられる環境があり、皆さんに活躍できる場を提供できると信じています。仕事を一緒にさせていただきながら、ともに目標を実現し、成長していくたく、より多くの皆さんがあなたの門戸を叩いてくださることを心よりお待ちしています。



**武田 恭世**  
Yasuyo Takeda  
名古屋事務所  
事業法人部  
パートナー  
税理士

2000年 東京事務所に入社  
2006年 アシスタントマネージャー昇格。名古屋事務所設立に合わせて異動し、東海圏の日系企業向けの税務アドバイザリー業務に従事  
2007年 マネージャー昇格。多数のM&A案件に関与。第1子誕生  
2012年 第2子誕生  
2015年 シニアマネージャー昇格。大型の連結納税導入支援業務を担当し経験を積む  
2017年 ディレクター昇格。連結納税導入支援業務を担当しつつ電子帳簿保存法支援チームに加入  
2020年 パートナー昇格。  
リモート環境下において、名古屋・大阪・東京・福岡各地のクライアントを担当

## 02 Interview

パートナーらしさは、  
一人一人違っていい。  
それがPwCらしさなのだから。

### ■ プロフェッショナルとして生きるために

両親が共働きだったためか、私も長く働くのが当たり前と考えて育ちました。税理士という具体的な目標ができたのは大学生のときです。当時はバブル経済崩壊後の就職難の時期で、多くの女性の先輩が就活に苦労していました。その姿を見た私は何らかの資格を身に付けておきたいと考え、簿記を学んでいたことから税理士がいいだろうと考えました。資格という“武器”を手に持っていくプロフェッショナルというイメージが、税理士という響きにはあったのです。

またバブル経済真っただ中だった中学生の頃に、漠然とディトレイダーの様に、子育てしながら家で働けたらいいと考えており、税理士ならばそうしたワークスタイルも可能ではと思いました。今私は2人の子どもを育てながら名古屋事務所を拠点に、大阪、東京、福岡のクライアントを持ちながらリモートワークをしています。あの頃に思い描いていた姿を無理なく手に入れられたことは、やはり感慨深いものです。

### ■ 互いを支え合うカルチャーに魅せられて

税理士として働く上で、選択肢はいくつかありました。金融業界でインハウスの税理士として働くことも考えましたが、税理士法人の方が多様な業界のさまざまな企業を見ることができ成長も速いと考えました。大手税理士法人を志望したのも、同じ理由です。もっとも大手ファームそれぞれの違いなど、当時の私にはよくわかりませんでした。仕事内容も待遇も大差ないように感じました。では何を基準に選んだらいいかと考え思ひ至ったのが、人や雰囲気といったカルチャーの違いでした。その点で感じたのが、PwC税理士法人はとても“ジェントル”であるということです。出会った職員が誠実で、若手一人一人のことをしっかりと心に留めてくれていると感じました。

こうした印象は間違っておらず、入社後には多くの先輩方に支えていただきました。一言でいって皆さんとてもサポート型。少しでも私が悩んでいる、迷っていると感じたらすぐに声を掛けて相談に乗っ

てくれたり、自身の案件ではないにも関わらず、相談すれば快く意見を共有してくれました。また入社当初の私の担当は、外資系クライアントの申告書作成業務でした。それが一段落したとき、隣の席の先輩が「やってみない?」と持ち掛けてくれたのが日系企業の外国税額控除計算やタックスヘイブン対策税制の合算金額計算業務です。学生時代にあまり学んでこなかった分野であったため、私にとって絶好の勉強の機会となりました。このように私のことをよく見てサポートし、無理なく成長へと導いてくれる環境があると感じました。こうしたカルチャーはパートナーになった今も変わっていません。例えば壁にぶつかったら他のパートナーに気軽に相談できるし、マネージャーが私にアドバイスを送ってくれることさえあります。お互いのことを普段から気にして、ちょっとお節介なくくらいに支え合おうとしている。そんな雰囲気はPwC税理士法人ならではの持ち味ではないでしょうか。私にとって非常に心地よいものです。



## ■自分らしいパートナー像を築いていきたい

入社当時、パートナーは雲の上の存在でした。際立って優秀な税理士でなければなることは不可能で、まさか自分がパートナーになるとは想像もつきませんでした。ですから昇進の打診を受けたときは躊躇しました。果たして自分にできるだろうか、重責を果たせるだろうかと。一方で後輩の女性たちのために道を拓くチャンスもあるとも感じました。当時は女性の税理士が活躍する場をもっと増やしていくこうという気運があり、私がパートナーになることはその流れを加速させることにつながると思ったのです。相談した先輩パートナーの「あなたのような、いい意味で“普通の人”がパートナーになるからこそ、後輩も後に続きやすいのでは」というアドバイスもあり、私はパートナーに挑戦することを決断。入社してちょうど20年目のことでした。

実際にパートナーになってみて感じたのは「パートナーってこんなに楽しかったんだ」ということです。パートナーはプロジェクトの責任者として全体をハンドルし、納品に向けてすべてをコントロールしていくしかなくてはなりません。プロジェクトを自分で動かしているという醍醐味はパートナーならではの喜びですし、プロジェクトが終わって仲間やクライアントと成功を分かち合うときは、大きな達成感が得られます。私はブレインギングマネージャーのタイプでマネージャーやスタッフと同じ目線で一緒に作業することが多く、一緒に仕事をしたチームメンバーから「多くの学びがありました」とフィードバックをもらえるとうれしくなります。階層の違いを超えて支え合いながら仕事を進めていく、そんな私らしいパートナー像を築けたらと考えています。

## ■多様なパートナーが生み出す多様性重視の企業文化

現在私は日系多国籍企業をクライアントとして国際税務アドバイザリー業務を担当しているほか、ファームワイドでのグループ通算制度対応支援のコアメンバーも務めています。グループ通算制度導入に際しては業務プロセスの効率化が必須であり、私たち税理士はクライアントに対してそのサポートも求められています。これまでの税理士は申告書等の成果物を提供して終わりだったかもしれません、より深くクライアントに入り込んで常に寄り添っていくことが求められているわけです。こうしたニーズに対応できる税理士像の確立も、パートナーのミッションだと感じています。

もちろん女性パートナーを増やしていくことも重要な使命です。私自身が子育てに追われながら仕事に取り組んできたという経験を

持っているので、多くの女性税理士が昇進を目指すのに心の余裕が持ちにくいのも事実だと感じています。しかし、ぜひ自分のポテンシャルの高さに気づいて、上を目指してほしいのです。私がパートナーとして働いている姿が後輩のモチベーションアップにつながったら、こんなにうれしいことはありません。むろんこれは私のコピーを育てたいという意味ではありません。一人一人がその人らしさを大切にし、持ち味を活かした、自分らしいパートナーを目指してほしいと思っています。それによってPwC税理士法人全体にさらなる多様性が生まれ、新たな活力が湧いてくるのではないかでしょうか。これから私の私にとって、非常にやりがいのあるテーマです。

## Tax Services

# 税務プロフェッショナルの仕事とは

多様化・高度化する企業のニーズに応え、PwC税理士法人の税務プロフェッショナルはさまざまな領域でサービスを提供しています。業務を通じて実感するクライアントからの厚い信頼、そして成長の手応えこそ、一番の喜びです。



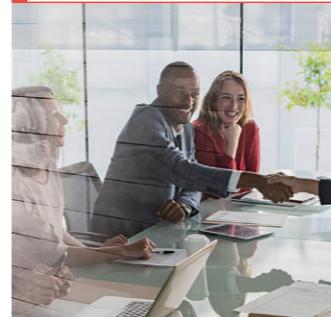
## 主な事業部



PwC税理士法人の事業部は大きく分けて上記の4つで形成されており、それぞれ専門のスキルを持ったプロフェッショナルが在籍しています。PwC税理士法人の税務サービスではクライアントの課題に応じたスキルを持つ人間がプロジェクトメンバーとなります。例えば金融部のメンバーが法人事業に関わるサービスを担当することもあり、自在な活躍ができます。

## 主な業務

### M&A税務



スピード感ある成長を目指す企業にとって、M&Aは重要な手段です。買収予定企業の潜在的リスクを調査するデューデリジェンスに始まり、投資のストラクチャリング構築、出口戦略まで、税務プロフェッショナルはトータルなタックスプランニングに携わります。メディアに大きく取り上げられるような大型案件や国境を越えるクロスボーダー案件に携わる機会も多数あります。会計や法律の専門家とのコラボレーションも醍醐味です。

#### 主なサービス

- 税務申告目的でのグループ法人株式のバリエーション支援
- グループ再編成・リストラクチャリングに關わる税務サービス
- 事業再生における特殊な税務対応
- 国内企業買収および経営統合に係るM&Aストラクチャリング
- クロスボーダーM&Aに係る税務ストラクチャリング
- 買収対象会社の税務デューデリジェンス
- 税務モデリング支援
- PMI(Post Merger Integration)に關わる税務サービス

### 海外投資支援

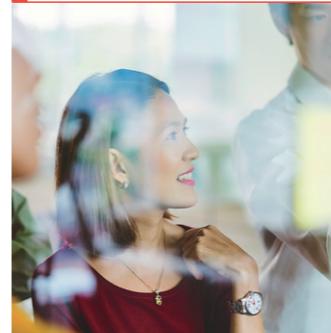


日系企業のグローバル化は加速する一方です。海外子会社の設立、海外企業の買収等も盛んです。こうした海外投資に際して、最適な成果を得るために税の観点からのアドバイスや税リスクへの備えなどを行います。海外のPwCメンバーファームとの連携も必要となり、まさにグローバルに活躍する税務プロフェッショナルとしてのやりがいを感じることができます。日本経済の発展に貢献する実感も得られます。

#### 主なサービス

- ストラクチャーに係る国内外の課税関係の検討
- 複数のストラクチャーの税務コスト比較
- クライアントに適切なストラクチャーを選定

### グループ通算制度対応支援



連結決算からグループ通算制度への切り替えを決断する企業が増えています。背景にあるのは税務ガバナンス強化の狙いです。こうした企業に対して税務プロフェッショナルは、グループ通算制度導入検討から承認申請、体制整備、コンプライアンスに至るまでトータルにサポートします。場合によっては業務プロセスの抜本的な改革も必要となるため、クライアントに深く入り込んで二人三脚での取り組みを進めていくことになります。

#### 主なサービス

- グループ通算制度の導入検討段階から承認申請
- グループ通算の体制整備
- 子会社の税務コンプライアンスの対応能力向上などガバナンス強化

### 国際税務マネジメント



国際税務とは、海外からの投資または海外への投資に際して発生するクロスボーダー取引に関する税務です。企業活動のグローバル化に伴ってクロスボーダー取引は増加しており、適切な納税へのニーズも高まる一方です。税務プロフェッショナルは国際的な二重課税のリスクが発生しないかを慎重に見極めながらクロスボーダー取引のスキーム構築に携わり、クライアントに適切なアドバイスをしていきます。

#### 主なサービス

- デジタル課税対応支援
- 外国税額控除
- グローバルベースの実効率マネジメント
- グループ内財務戦略
- タックスヘイブン対策税制
- 海外投資ストラクチャー
- 地域統括会社／本社機能の移転
- グローバルタックスマネジメント
- カーボンプライシング対応支援

## 税務業務改革テクノロジー



税務部門では、税務リスクや税務コストを適切に管理するため、税務テクノロジーを活用することは必須となっています。PwC税理士法人では、税理士とエンジニアがタッグを組んで税務テクノロジーに特化したチームを組成し、企業の税務業務を変革するため、RPA(ロボティック・プロセス・オートメーション)やAI(人工知能)などさまざまなテクノロジーを活用したソリューションを提供しています。これにより、クライアントの税務領域における業務プロセスのデジタル化を推進し、業務プロセスの効率化や改善に貢献しています。

### 主なサービス

- Country by Country Reporting (CbCR) Analyzer
- RPA(ロボティック・プロセス・オートメーション)による税務業務変革支援
- 自動化ツールによる税務業務効率化「small automation」
- 税務分野におけるAIの活用
- 債却資産申告書作成支援サービス
- 電子申告義務化対応支援サービス
- Webコミュニケーションプラットフォーム(Engagement Center)

## 金融



ビジネスの高度化やグローバル化によって金融ビジネスに関連する税務は複雑化する一方です。新たな金融プロダクトも多数誕生しており、税務上の留意点は今後ますます増えていくことでしょう。税務プロフェッショナルはこうした状況に対応し、過去の経験にとらわれない税務サービスの提供に取り組んでいます。監督官庁からの指針にも大きな影響を受けることから、情報収集や人脈づくりも重要な業務です。

### 主なサービス

- 外国金融機関の日本進出に関する税務サービス
- 投資プロダクト・金融商品に関する税務コンサルティング
- 金融機関に対する税務コンサルティングおよび申告書作成業務

## プライベートエクイティ



グローバルPE(プライベートエクイティ)、国内PEによる投資案件は増加しており、ファンド組成、ソーシング、買収、ストラクチャリング、買収後のバリュエーション、エグジット、そして税務調査対応に至るまで、一貫した税務アドバイスが求められています。税務プロフェッショナルは投資リターンの最大化を目指したディールを実現すべく、豊富な知見に基づく支援を提供。日本のみならず海外の課税環境にも目を配りながら、税コストの最適化に貢献していきます。メンバーファームとの連携も積極的に行います。

### 主なサービス

- ファンド組成支援
- ソーシング支援
- ファンドストラクチャリング
- 買収ストラクチャリング(ファイナンスのストラクチャー含む)
- 税務デューデリジェンス
- PMI支援
- リファイナンシングのストラクチャリング
- エグジットストラクチャリング
- 投資家対応(キャリード・インタレストのアドバイスを含む)
- 税務調査対応

## 法人税申告業務



法人税や消費税の申告に伴い、各種届出書類の作成代行など、税務コンプライアンス業務を行います。業務効率化の流れの中で税務コンプライアンス業務に充てられるクライアントのリソースはより限られたものになってきており、税務プロフェッショナルにはRPAに代表されるデジタルツールを積極的に提案することも求められています。さらには申告業務の過程で入手した情報をもとにクライアント自身も気づいていない潜在的な税リスクを発見し、課題解決に向けた提案を行います。

### 主なサービス

- 法人税申告
- 消費税申告
- 相続税申告
- 債却資産税申告
- 事業所税申告 等

## 移転価格



移転価格税制は、親子会社間の取引価格(移転価格)を通じた国外への所得移転を防止する制度で、特に新興国ではグローバル企業をターゲットにした調査が頻発しています。移転価格課税が数億円単位に上ることもあり、日本本社への利益還流も困難となるため、国内外の移転価格調査に積極的に関与することが求められます。PwC税理士法人の税務プロフェッショナルは、課税リスクの事前調査や移転価格ポリシーの構築・文書化、税務当局との事前確認(APA)などに從事し、クライアントを強力にサポートします。

### 主なサービス

- 移転価格調査対応
- 海外の税務調査・国内争訟のプロセス
- 移転価格グローバルタックスマネジメント
- 移転価格と業績評価
- ジョイントベンチャーの移転価格リスク対応
- 相互協議申立て、異議申立て、審査請求
- グローバルネットワークを活かした移転価格税制対応支援

## 税務リスク&ガバナンス・レポート



クライアントのグローバルな事業展開やBEPSプロジェクトによる世界的なコンプライアンス強化の動きの中で、税を含むグループガバナンス強化の支援や、デジタル課税と国際課税ルールの変更への対応等、クライアントを取り巻く税務リスクを抽出し、オペレーションの高度化やデジタルツールの駆使、税務組織のあり方の検討を通じたリスク対応の支援を行っています。また、ESG経営を実現するための手段として企業が税務情報を広く開示することが注目されており、そのための税務戦略の策定および実行ならびに開示を支援しています。

### 主なサービス

- 税務情報のレポート
- 税務ガバナンス体制の強化
- 海外税務リスク・ヘルスチェック
- 税務ポリシーの策定
- データ分析による税務リスク調査
- デジタルツールの導入支援

## 事業承継・資産税



本格的な高齢化社会を迎えた今、企業オーナー・富裕層にとっては事業や資産のスムーズな承継は大きな関心事となりました。そうしたニーズに応えて税務プロフェッショナルは、クライアントに寄り添いながら税務申告業務はもちろんのこと、納税資産確保のお手伝いや従業員の福利厚生の充実といった幅広い領域のサービスを提供します。状況によってはPwCグローバルネットワークのメンバーファームとの連携も行います。

### 主なサービス

- 税務／事業承継ヘルスチェック
- 戦略的税務バリエーションサービス
- 納税資金確保に関するアドバイス
- 相続税・贈与税・所得税申告書作成サービス
- 財団の活用検討および運営サポート
- 税務調査立ち会い・支援
- 事業承継税制の活用検討と実行サポート

## 不動産



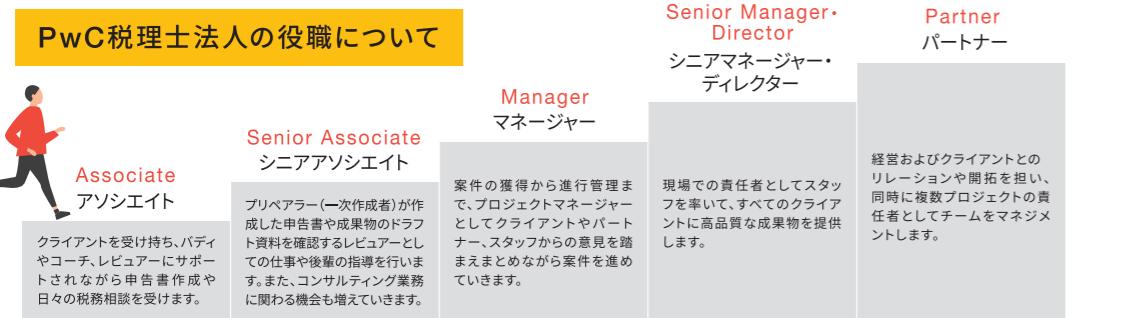
不動産ビジネスにおいては、取得、運用、売却などのさまざまな段階において税務上の論点が発生します。税務プロフェッショナルは不動産取得スキームの構築や不動産保有会社の設立といったアドバイスを通じ、不動産投資の効率化に取り組みます。PwC税理士法人には国内最大級の不動産に特化した税務チームがあり、豊富な経験やノウハウを学ぶことによって不動産税のプロフェッショナルとして育っていくことができます。

### 主なサービス

- 不動産関連ビジネスのM&Aに関する税務コンサルティング
- 不動産ファンドに関する税務サービス
- 不動産会社固有の税務問題に対するコンサルティング
- REITに関する税務コンサルティング・申告書作成業務
- 海外不動産投資に関する税務コンサルティング
- 再生可能エネルギーに関する税務サービス
- コンセッション事業に関する税務アドバイス
- 固定資産評価額適正化サービス

# Career Step & People プロフェッショナルとして成長していく

税務業務未経験の方はPwC税理士法人に入社後、アソシエイトとしてキャリアをスタートすることになります。その後、業務や研修、自己啓発等を通じて着実にステップアップ。自身の成長に伴って、やりがいや責任も大きくなっています。税務プロフェッショナルとしてのあなたの歩みをイメージしてみてください。



## Associate



### ▶ Profile

事業法人部

税理士試験合格者

事業法人部に所属し法人税・消費税の申告書作成業務や日々の税務相談、タックスヘイブン対策税制などの税務コンサルティング業務に携わる。

### ▶ Schedule

#### 1日の流れ

- 09:15 始業・メールチェック
- 10:00 税務相談への回答についてマネージャーにドラフトをメール
- 12:00 昼食
- 13:00 ワーキングペーパー（申告書の根拠となる計算資料）作成
- 14:00 クライアントとミーティング
- 15:00 タックスヘイブン対策税制の適用判定
- 16:00 担当案件チームとミーティング
- 17:15 終業

### ▶ Episode

#### クライアントと直接コミュニケーションを取りながら

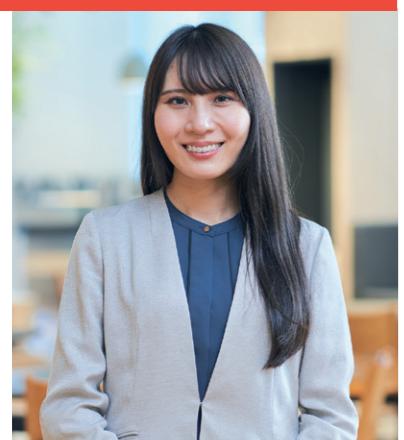
若手のうちからクライアントと接することの多い環境で働きたいと考えて選んだのがPwC税理士法人。申告書作成だけでなくコンサルティング業務やディールアドバイザリー関連の仕事にも携われるといった、仕事の幅広さも魅力でした。

アソシエイトの役割は税務サービスのスタート地点を担うことです。そのため私はクライアントとコミュニケーションを取って資料を集

め、ワーキングペーパーを作成しています。経理ご担当者だけでなく事業部のご担当者も参加するようなミーティングにパートナー、マネージャーとともに出席することもあり、早くもさまざまな成長の機会をいただいています。

外資系のクライアントも多く、この環境を活用して英語力を磨き、海外向外にも挑戦したいと考えています。

## Associate



### ▶ Profile

金融部

公認会計士論文式試験合格者

金融業のクライアントに対するコンプライアンス業務・コンサルティング業務を担当。

### ▶ Schedule

#### 1日の流れ

- 09:15 始業・メールチェック
- 10:00 クライアントとミーティング
- 11:00 受領した資料の確認
- 12:00 昼食
- 13:00 ワーキングペーパー（申告書の根拠となる計算資料）作成
- 14:00 申告書作成準備
- 15:00 エンゲージメントチーム内で検討事項の共有・確認
- 16:00 税務相談への回答についてマネージャーにドラフトをメール
- 17:15 終業

### ▶ Episode

#### 業務の第一歩はアソシエイトが担います

税務のコンプライアンス業務、コンサルティング業務のいずれにおいても最初に資料を確認するのは私たちアソシエイトです。具体的には税務コンプライアンス業務においては申告書作成のための資料作成、コンサルティング業務ではクライアントからのご相談に対する回答の大枠の作成などで、こういった書類のプリペアラーを任されます。若手の間はどうしても時間がかかるものの、主体的に取

り組むことで知識面でもスキル面でも成長できます。自分がアサインされているクライアント以外の業務についても携わることがあり、幅広い知見の習得につながります。

現在は金融部内の幅広い業務に携わっていますが、今後は不動産、銀行・証券・保険、PEなどから専門的に担当することになります。どの分野を担当するか、じっくりと考えていくつもりです。

## Senior Associate



### ▶ Profile

事業法人部  
税理士

前職は中小規模の税理士法人で勤務。入社後、申告書作成業務のプリペアラーとして届出書の作成や、電子帳簿保存法対応へのサポート等を担当。入社翌年にシニアアソシエイト昇格。レビューとして申告書のレビューとフォローを担当。新規プロジェクトにも携わる。

### ▶ Schedule

#### 1日の流れ

- 10:00 始業・メールチェック
- 11:00 申告業務のレビュー作業
- 12:00 昼食
- 13:00 チーム内のオンラインミーティング、レビュー作業
- 15:00 クライアントとのオンラインミーティング
- 18:00 終業

### ▶ Episode

## 広い視野のもとで業務をコントロールする

シニアアソシエイトになると、プリペアラーが作成した申告書や資料を確認するレビューとしての仕事が増えます。申告書等の成果物が正しくできているか、税務論点の検討の漏れがないかを判断することが求められるため、常に税務知識の向上や税制改正による新規論点のキャッチアップが必要です。同時に広い視野で業務の全体を見渡し、業務を期限内に効率よく進めるためにコントロールする力も求められます。

税理士としての基礎的なスキルは身に付いてきたので、今後は申告業務以外のコンサルティング業務に参加する機会も増えてくるでしょう。PwCメンバーの連携も含め、クライアントの課題解決に貢献していきたいと考えています。

## Manager



### ▶ Profile

事業法人部  
公認会計士

アソシエイトとして入社し、4年目にシニアアソシエイト昇格。税務コンサルティングも担当するようになる。さらに3年後PwC英国に出向、翌年マネージャー昇格。4年の出向期間を経て帰任し、海外経験を活かしてM&Aやグローバルな組織再編案件に携与。

### ▶ Schedule

#### 1日の流れ

- 11:00 始業・メールチェック
- 12:00 昼食
- 13:00 担当案件チームとオンラインミーティング
- 14:00 担当案件の課税関係の検討、成果物の作成・レビュー
- 16:00 新規案件の提案書作成
- 17:00 定例社内ミーティング
- 19:00 終業

### ▶ Episode

## 案件の始まりから終わりまでを管理する

マネージャーとしての仕事は、案件の獲得を目指して提案書作成にとりかかることから始まります。案件が獲得できたらチームを組成し、プロジェクトマネージャーとしてチームメンバーと一緒にになって案件を進めています。進捗管理、クライアントとのミーティング、成果物のレビューや報告等も欠かせません。クライアントに最適な成果物を提供するためにスタッフの相談に乗ったり、パートナーの協力を仰いだりすることも大切です。

またマネージャーに昇格する頃、海外出向の機会が訪れます。私自身、PwC英国への出向ではクライアントとのコミュニケーションについて深く学ぶことができ、大きな成長が得られました。今後は今まで以上にチームメンバーにプラスの影響を与えられるような存在になりたいと考えています。

## Senior Manager



### ▶ Profile

事業法人部  
税理士

入社4年目にシニアアソシエイトへ昇格し、コンサルティング業務がメインに。その後マネージャー昇格のタイミングでPwC米国に出向。帰任後にシニアマネージャーへ昇格し、税務申告書作成、コンサルティング業務等、多様な業務に携わる。

### ▶ Schedule

#### 1日の流れ

- 09:15 始業・メールチェック
- 10:00 日系上場クライアントとの定例月次会議
- 12:00 昼食
- 13:00 キャリアコーチとしてスタッフと面談
- 14:00 業務効率化プロジェクトのリーダー会議
- 15:00 PwCインドとオンラインミーティング
- 16:00 申告書ドラフトのレビュー、新規提案書の作成等
- 17:15 終業

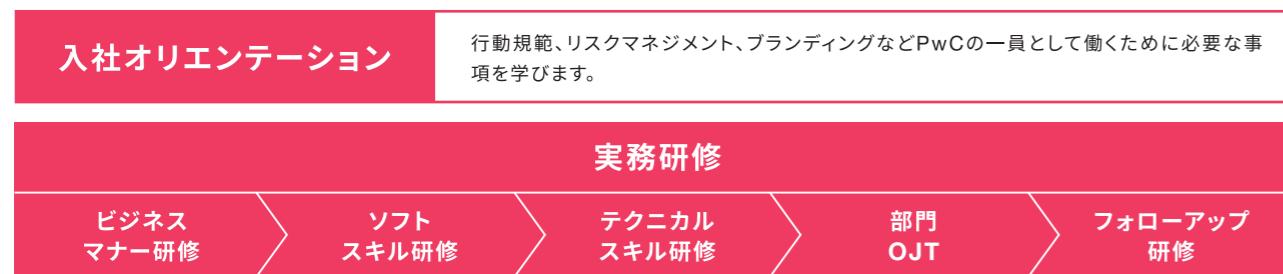
### ▶ Episode

## すべてのクライアントに高品質な成果物を

現在私は、外資系および日系上場クライアント合わせて約50社に対して、税務顧問、申告書作成業務をベースとしつつ、電子帳簿保存法対応、税務リスク管理等のコンサルティング業務を行っています。シニアマネージャーとして求められているのは、実質的な責任者としてスタッフを率いて、すべてのクライアントに高品質な成果物を提供することです。同時に日頃から密なコミュニケーションを心

掛け、困ったらまず私に相談しようと思っていたりする関係性づくりにも注力しています。さらに専門家集団であるPwCメンバーの知識をよりスピーディーにクライアントにお届けできるよう、多様なプロフェッショナルを“まとめる力”も高めていきたいと考えています。

## ■ 入社時研修



入社してすぐに使う実務のノウハウや税法の知識に加え、プロフェッショナルなビジネスパーソンとして必要なマナーも身に付けていきます。

プロフェッショナルとしてのマインドセット、コミュニケーション力、問題解決能力を磨きます。

表計算ソフトの研修から「申告書作成チャレンジ」といわれる昨年の申告書をなぞって作成する実践的な研修まで行います。

プロジェクトごとの実務トレーニング。クライアントの担当となり、コーチやバディからしっかりとサポートを受けながら、実際に業務を習得します。

※OJT=On the Job Training

※税法未学習の方は、法人税や消費税の税法体系や申告実務などを約3ヶ月間にわたって学びます。(税務Foundation研修)

## ■ 各種スキルアップ研修



法人税などの国内税法、移転価格税制を含む国際税務、関連諸法規(会社法)などのさまざまなトピックに関する研修です。月に1~2回の頻度で開催され、税制改正や最近の裁決・裁判例などについて学びます。

KC(Knowledge Center)チームにより定期開催される研修で、各種法律への理解を深め、また税務裁判例などについて学びます。

PwC弁護士法人により定期開催される研修で、各種法律への理解を深め、また税務裁判例などについて学びます。

コーチ、バディ、レビューとしてメンバーをサポートする立場になった際に、どのように関わり、キャリア構築を導いていくかを学びます。

ソフトスキルのケイバビティ向上の機会として、プロジェクトマネジメントや組織マネジメントについて学びます。

## ■ グローバルに活躍するために

メンバーの海外でのキャリア形成を積極的に支援しています。

### ■ 海外語学研修

今や必須のビジネススキルとなった英語力を磨くための研修です。毎年10名程度のメンバーが選出され、夏から秋にかけての2~4週間、フィリピン等の英語学校で学びます。年齢や職階に関わらず、誰でもエントリー可能です。

### ■ 海外勤務制度

常時30~40名のスタッフが海外のPwCメンバーフームに派遣されています。派遣期間は原則2~3年間。現地で実業務に従事します。このプログラムを経験したメンバーは、コミュニケーション力や海外のビジネスに対する理解度などが一段とレベルアップし、活躍の場をさらに広げています。

## ■ 価値向上のために～資格取得支援～

最大年10日の試験休暇	公認会計士登録に必要な実務経験	英会話学習補助	各種協会費用の負担
税理士試験、公認会計士修了試験の受験に際して最大年10日間の試験休暇(有給)を付与。その他の休暇と併せて長期間休むことが可能です。	公認会計士登録を目指す方は、PwCメンバーフームのPwC Japan有限責任監査法人にて監査業務補助を行い、公認会計士になるための要件について満たすことができます。	英会話をはじめとする語学学習の補助金制度、CASEC受験費用の法人負担制度などがあります。	税理士協会・公認会計士協会の入会・資格登録のための諸費用や公認会計士の補習所費用などは法人が負担します。

## ■ 自分らしくいきいきと働くために～ウェルビーイングのための制度～

有給休暇	リフレッシュ・ヘルスケア休暇	昼食費補助	リモートワーク環境整備支援
毎年20日間。入社初年度は、入社月に応じた日数が入社初日に付与されます。	年間5日間取得可能。有給休暇と合わせれば2週間以上になります。	法人が半額補助する近隣飲食店で使える食事券(ミールクーポン)の支給があります。	PC・スマートフォン貸与の他、PC周辺機器購入支援やフレキシブルワーキング手当などのサポートがあります。
健康保険組合(カフェテリアプラン)	クラブ活動	コミュニケーション支援	レコグニション制度
人間ドックや医薬品購入、スポーツクラブなど、健康に関するメニューから必要とするサービスを自由に選んで利用できます。	ヨガ部やeSports部など、クラブ活動を通して社内コミュニケーションを活性化できます。	バディやチームメンバーなどと使えるランチ費用補助制度があります。	上位職階から下位職階、もしくは同位職階に対して商品等と交換可能なギフトポイントを添えて感謝の気持ちを伝える制度です。

## ■ 長く活躍するために～出産・育児・介護支援～

産前産後休業・育児休業	育児短時間／短日勤務	サポート体制	その他各育児支援	介護支援
男性の育児休業取得も推奨しています。保育所への入園ができないなどの事由がある場合は、子が3歳になるまで休職期間を延長可能です。	子の小学校卒業までは1日6時間勤務や週4日勤務などが可能です。	育児のための所定労働時間免除や法定時間外労働の制限を設け、仕事の割り振りにもお互いの事情を考慮しています。	ベビーシッター補助およびベビーシッター割引券の補助制度の実施や企業主導型保育園と提携、保活コンシェルジュサービスなどがあります。	介護に関しては、介護休業取得や所定外労働免除、短日・短時間勤務が可能です。

## Voice 利用者の声

### 13日連続で休暇を取得しました

繁忙期以外は比較的休暇が取りやすくなっています。私は夏に13日連続で休み、南アフリカに旅行しました。仕事にもメリハリが生まれます。

# Work Style 職場環境とワークスタイル

## 柔軟な働き方を可能にする

一人一人が希望する働き方を実現できるよう、柔軟な働き方の実現に取り組んでいます。



### ハイブリッドワーク

PwC税理士法人ではリモートワークとオフィスワークを両立させるハイブリッドワークを導入。働く場所を自律的に選択できる柔軟な働き方の実現に取り組んでいます。



### フレックスタイム制度

コアタイムなしのフレックスタイム制度で、日々の勤務時間を柔軟に選択することができます。



### コラボレーションを促す東京オフィス

法人間の垣根を越え、スタッフの自発的なコラボレーションを促すxLoSフロア、回遊性の向上や、革新的なアイデアを引き出す空間設計など、「共創」をテーマに設計されています。



### 最新のテクノロジーの導入

出社前に、各フロアの混雑状況や、会議室の予約ができるだけでなく、会いたいスタッフの執務場所を確認することも可能な状況把握システムを導入しています。



## インクルージョン&ダイバーシティ

PwC税理士法人では一人一人が“強み”を最大限発揮し、“コラボレーション”することで新しい価値を創造していきます。そのために必要な、互いをリスペクトするカルチャーを生み出すために、インクルージョン&ダイバーシティ(I&D)を推進しています。



### ジェンダーダイバーシティへの取り組み

性別に関係なく力を発揮できる環境づくり



### 働き方改革の推進

リモートや時短勤務などライフスタイルに応じた働き方の実現



### 障がい者雇用の推進

100名以上が所属する障がい者雇用チーム(Office Support Team)

## Voice 利用者の声

### 福岡で東京の仕事も担当

事業法人部(福岡事務所所属) シニアアソシエイト  
税理士

リモートワークが浸透し、Web会議が当たり前になったことで、クライアントを訪問する機会は以前より減少しました。私も福岡事務所に所属しながら東京の仕事も支障なくできるようになりました。実際に東京のクライアントの仕事は増えています。仕事の割り振りも、福岡事務所と東京事務所で差はなくなっていました。今後は国際税務など今まで経験できなかつた業務にも挑戦したいと考えており、チャンスはさらに広がっていくと期待しています。

### 柔軟な時間調整を実現

事業法人部 シニアマネージャー  
公認会計士／税理士

フレックスタイム制度を活用し、家族の用事に時間を割くなど、柔軟な働き方を実現しています。チームメンバー同士も積極的にコミュニケーションを取りようになり、時短勤務で働くメンバーや、家庭の事情で業務の難しい時間帯のあるメンバーがいる場合は、会議の時間をずらしたり業務のスケジュールを調整したりするようになりました。私自身もスタッフと予定を組む際は、不都合の生じない会議の設定や業務分担などに配慮しています。

## Our purpose

To build trust in society and solve important problems.

社会における信頼を構築し、重要な課題を解決する

## A Message from Our CEO

私たちが一番大切にしていることは「向上心」です。クライアントに満足していただける業務を提供するには、当然ですがプロフェッショナルとしての専門性が求められます。多様に変化していく税務に対応するために、日々、自らを高めていく必要があります。その意味で、プロフェッショナルとしての自分を磨き続ける意欲を持つ方こそ、仲間として歓迎したいと思っています。皆さんに向上心を生かして自ら成長できる土壤がPwC税理士法人にあります。

企業を取り巻く「税」の環境は大きく変化しており、税務の専門性に加えて、クライアントとの信頼を構築し一緒に価値を創造する人間力が求められています。世の中では、税務業務はテクノロジーにより代替されると言われており、私たちも税務申告業務では積極的にテクノロジーを活用して自動化を進めています。一方、税務は、企業の社会的責任やESG(環境・社会・ガバナンス)などの重要な経営課題にも広く影響します。このような重要な経営課題を任されるため

には、税務テクノロジーを駆使した上で、テクノロジーでは解決できない問題解決能力を磨いていくことが重要です。PwC税理士法人に入社される皆さんには、そのような「人財」になつていただくための投資を徹底して進めています。

私たちは、税理士・会計士の資格をお持ちの方(税理士科目合格者を含む)だけでなく、資格取得に向けて勉強中の皆さんを含めて広く募集をしています。また、企業における経理財務経験者、IT・システム導入経験者、エンジニア等、多様な経験を持った方も合わせて募集しています。私たちが重視しているのは、専門性を追求する情熱、他者を巻き込むコミュニケーション・コラボレーション能力、クライアントの課題を自分事として理解しチャレンジするマインドセットです。多様な経験や考えを受け入れ、お互いを認め合いながら、チームの力でクライアントの問題を解決するファームでありたいと考えています。

PwC税理士法人 代表 高島 淳  
Jun Takashima



## 法人概要

名称:PwC税理士法人

職員数:約800名

税理士、公認会計士:400名

そのほかの国の資格保持者など:37名

(2024年6月30日現在)

### 所在地

#### ■ 東京 本部

〒100-0004

東京都千代田区大手町1-2-1

Otemachi One タワー

#### ■ 東京 大手町

〒100-0004

東京都千代田区大手町1-1-1

大手町パークビルディング

#### ■ 名古屋

〒450-6038

愛知県名古屋市中村区名駅1-1-4

JRセントラルタワーズ38階

#### ■ 大阪

〒530-0011

大阪府大阪市北区大深町4-20

グランフロント大阪タワーA36階

#### ■ 福岡

〒810-0001

福岡県福岡市中央区天神1-11-1

ONE FUKUOKA BLDG. 11階

### PwC Japanグループ

PwC Japan有限責任監査法人

PwCコンサルティング合同会社

PwCアドバイザリー合同会社

PwC税理士法人

PwC弁護士法人

PwC総合研究所合同会社

PwCサステナビリティ合同会社

PwCビジネスアシュアランス合同会社

PwCビジネスソリューション合同会社

PwCアウトソーシングサービス合同会社

PwC社会保険労務士法人

PwC関税貿易アドバイザリー合同会社

PwCリスクアドバイザリー合同会社

PwC Japan合同会社

### 採用情報



最新の採用情報については  
ホームページをご覧ください。

<https://www.pwc.com/jp/tax/careers>